

シンポジウム開催の意義

ウズベキスタンを中心とした中央アジア地域を対象に文化・観光交流促進シンポジウムを開催する今回の事業の意義・背景は、以下のとおりである。

ウズベキスタンは、サマルカンド、ブハラ等の世界遺産が存在する中央アジアの中心国であり、シルクロードの中継地（オアシス）であったという背景から、シルクロードの最東端（奈良）を有する日本と歴史的関係が深い。また、第二次世界大戦後日本人抑留者達がナヴォイ劇場等の建設に携わり、彼らの眠る日本人墓地が整備されている等の親日的な雰囲気もある。さらに、成田、関空から直行便（ウズベキスタン航空）が飛んでおり（注）、今後の日本人の重要なデスティネーション（目的地）となる可能性を有している。

中央アジアは、世界観光機関の主要な観光開発プロジェクトの一つである「シルクロード・プロジェクト」のメインの対象地域となっており、本年10月22日には、サマルカンドに世界観光機関シルクロード・ツーリズム・オフィスが開設され、同プロジェクトを強力に推進していく体制が確立されたところである。なお、当然日本は、同プロジェクトの主要な推進メンバー国となっており、同オフィスの開設記念式典にも日本政府代表団（APTEC理事長等）が出席している。

開発途上国であるウズベキスタンの政府も、今回のプロジェクトを通じて日本人観光客が増え、中央アジア地域の観光収入が増加することに強い期待感を表明しており、中央アジア諸国については同国政府が積極的に調整しようという意欲を見せている。

JICA等を通じ、すでに相当程度の観光地調査がなされており、シンポジウムの開催等一定の後押し（呼び水）をすればかなりの日本人観光客増が見込まれる。

本年8月の川口外務大臣の中央アジア歴訪に際し、観光開発や観光促進について、日本と中央アジア諸国は今後とも協力していくことが確認されている。

（注）関空定期便乗入れ2001年4月28日、現在週2便
成田定期便乗入れ2002年11月6日、現在週2便